

2016年熊本地震を経験して

医療法人社団鶴田病院 ME室 中村健二、中原祥吾、原田美砂子
岡崎優作、奥田みどり
看護部 岡村ゆかり
医局 川畑幸嗣、山口裕二、鶴田豊

【はじめに】4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード(M)6.5の地震(前震)が発生した。その28時間後の4月16日1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震央とするM7.3の地震(本震)が発生した。

【被災時の対応】被災後治療は開始したが、メーカーが状況確認のため来院して、機器の動作確認と影響についてチェックした。患者へは治療状況の問い合わせに回答し、被災によって来院できない患者からは治療のキャンセルが入った。来院時には患者から被災状況を確認し、メンタルケアの必要性に対しても配慮した。

【結果】地震対策として、機器の固定方法や電極収納の棚等についても検討する必要があると思われた。治療中の震災ではなかったが、治療中での地震発生災害訓練を実施したことがなく、今後の課題である。ハイパーサーミア治療での災害対策マニュアルが作成されてなく、被災された患者への治療等を含めた作成が望まれる。

【まとめ】今回の2016年熊本地震における、温熱治療に対する当院の被災状況は少なく、治療の延期や治療中止することはなかった。今回の災害を体験して、ハイパーサーミアに関する災害マニュアルや災害時の患者への対応マニュアルが必要だと思われた。